

## 長崎南山高校と議員との意見交換会の要旨

○参加者 議員：山口（経）議員、浦川議員 学生：長崎南山高校2年生3人、1年生2人

○発表テーマ：「観光」ながさき「住む」ながさき

○意見交換会要旨

（山口議員）

本日の政策提案の発表は、自分にはない視点での発表で大変有意義だった。

長崎県の観光の課題は、大きな観光地である長崎市と佐世保市の間を結ぶ形が整っていないこと。ハウステンボスの客は、嬉野などの佐賀県に行くことが多く、長崎へ来た観光客はハウステンボスではなく雲仙に行くことが多い。この対策として現在、長崎市と佐世保市を1時間で結ぶ西彼杵道路の整備を行っている。

また、コロナ禍前は長崎市にクルーズ船が年間約300隻寄港していた。このため、松ヶ枝岸壁のツーバース化を進め、船から直接世界遺産であるグラバ - 住宅や大浦天主堂と結ぶ計画をしている。観光地のすぐ近くに世界遺産があることの強みをどう活かしていくかも課題。

（浦川議員）

定住、人口流出、社会減をどうくい止めるかも長崎県の課題。毎年約6,000人の人口流出があり、その8割が若者世代である。

また、魅力ある県内企業を紹介するため「NR」という学生向け情報紙を作成しているが、今の若者は紙媒体を見ることが少ない。専用のサイトを作るという話もあったが、どうしたら県内の企業をよりPRできると思うか。

（生徒）

学生に、県内の中小企業の魅力がうまく伝わっていないのでは。県の海などの自然に観点を置き、企業の魅力を伝えたり、イベントを開いたり、オープンスクールの感じで学生が参加できると、良さが伝わるのでは。

（生徒）

40%の若者が離職するという事は、若者に企業の実態が伝わっていないのでは。長崎県が主体となり、YouTube等で企業の情報などを流せば、県内の会社で働きたくなるのでは。

（生徒）

中学生のときに職場体験があり、ネットの情報だけでは分からないことも、実際に体験することでわかることもあったので、体験型の計画をしてもいいのではないか。

（山口議員）

平成30年の高校生の県内就職率は61.1%だったが、令和3年は72.1%まで上昇したが、大学生の県内就職率は、平成30年が41.0%、令和3年が40.8%と横ばいである。

県内の大学に学びたい学部がなく、県外の大学に行き、そのまま県外で就職することも多い。

また、県では企業誘致や県内企業の強化を積極的に行い、1,600人ほどの雇用を計画する企業も出てきているので、若者には県内の企業をよく知り、就職の選択肢として考えて欲しい。

（浦川県議）

実際、長崎には企業が来るような魅力や広大な土地も少なく、どうしてもできない部分がある

ので、郷土愛を育てることで、県外に出て行っても長崎を支援してもらえるような形をとるのも一つの方法だと思う。

(山口議員)

議員のなり手不足も社会問題である。若い人には、政治の世界や行政を知ってもらい、将来は議員を目指して欲しい。

(生徒)

議員というのは、少しハードルが高いと感じる。議員になりたいと思ってもどうして良いか分からない。

(浦川議員)

議員になるハードルが高いわけではないし政治も身近なものである。例えば、高校の生徒会も一つの政治であり、校舎が暗い・トイレを修繕して欲しい等の提案も学校の中での政治である。

自分一人の思いだけでは学校は変わらない。自分の思いを伝播させ、生徒会が同じ方向に進み出すと学校が変わっていくと思うので、ハートとハートをぶつけて本音で話しあって欲しい。

(生徒)

政策提案の最後に発表した、働く世代向けの奨学金の返済の取り組みとして、4年以上長崎に滞在し、5年以上長崎で働けば奨学金の50%や25%を返済するという提案をしたが、可能だと思うか。

(浦川県議)

奨学金の種類にもよるが、県内企業に勤めたら、奨学金の全額や一部を補填するといった取り組みもしている。将来、奨学金の返済で苦勞する際は、相談すればある程度はカバーできるようになっているので、安心して奨学金制度を利用して欲しい。